

11月15日（火）

講演5

新技術を含む公共交通の地域に応じた導入促進評価のための移動需要推計に関する検討



交通システム研究部

※小林 貴

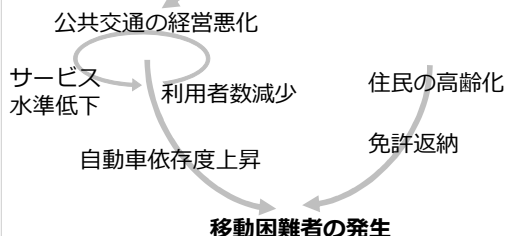
大野寛之

工藤 希

背景・目的

●移動困難者の問題

根本原因
移動需要の規模と
移動供給量のミスマッチ



●少ない移動需要に対応した低速モビリティの活用が着目

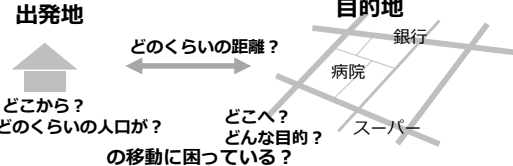
低速モビリティ
(グリーンスローモビリティ)



メリット
安価（乗用車程度）
安全（低速20km/h以下）
運用の柔軟性（小型）

デメリット
航続距離（電動）
遅い（低速）

●少ない移動需要の詳細な把握が必要 (低速モビリティは長距離の移動に向かないため)



【目的】低速モビリティで対応可能な小規模な移動需要を推計するツールの開発に向けた取り組みを紹介

低速モビリティ導入時の移動需要推計ツール

Step1 目的地への徒歩アクセス性の評価ツールの開発

●答えたい問い

日常生活に必要な移動先に徒歩でアクセスしにくい人が、

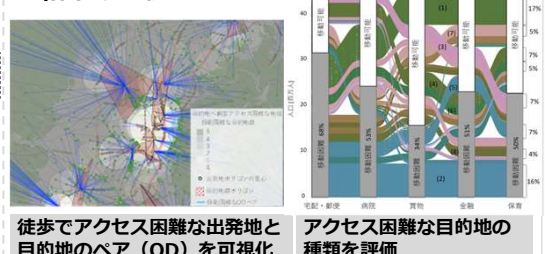
どこから？どこに？
どのくらいの距離？
どのくらいの人数？

いるか？

●方法



●結果の一例



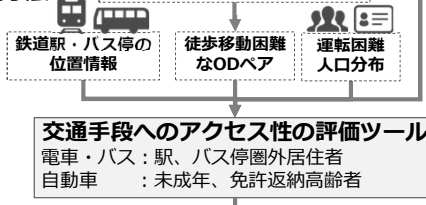
Step2 交通手段へのアクセス性の評価ツールの開発

●答えたい問い

徒歩で目的地に移動できない人の内、
電車・バス（駅・バス停圏外居住者）
自家用車（未成年、免許返納高齢者）

での移動に困っている人は、
どこにどのくらいいるか？

●方法



●結果の一例

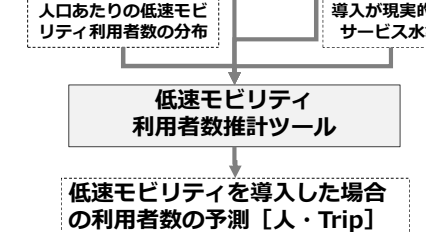


Step3 低速モビリティ利用者数推計ツールの開発

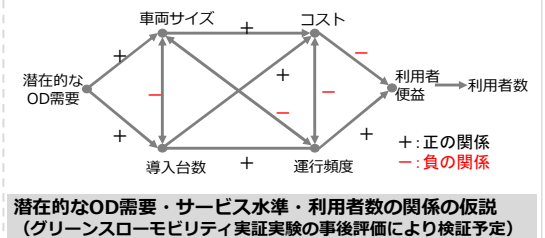
●答えたい問い

日常の移動に困っている人に対して、
グリーンスローモビリティで対応可能なエリア・人数は日本にどの程度存在するか？

●方法



●分析の仮説



まとめ

●まとめ

低速モビリティで対応可能な小規模な移動需要を推計するツールの開発に向けた取り組みを紹介した。以下の3つのテーマに取り組む中。

- ① 目的地へ徒歩でのアクセス性評価ツール
- ② 交通手段へのアクセス性の評価ツール
- ③ 低速モビリティ導入時の利用者数推計ツール

●今後の課題

移動需要

- ・需要推計ツール
- ・徒歩アクセス性
- ・交通手段へのアクセス性
- ・利用者数推計

移動手段供給

- ・交通量推計ツール
→低速可能路線の明示
- ・貨客混載可能エリア評価ツール
→人と物の移動の効率化

低速モビリティを含む新たなモビリティの導入支援ツール